

～手話を学びたい人は～

県内の当事者団体・関連団体では「手話を学びたい」という人のために、目的に応じたサークルや講座を開設しています。多くの人と交流を深めるために、またボランティアや仕事として活用するために、積極的にご参加ください。

手話サークル

子どもからお年寄りまで、誰もが気軽に参加できる地域活動です。手話を学ぶだけでなく、耳が聞こえない・聞こえにくい人たちとついにイベントなどを楽しむこともできます。聞こえる人と聞こえない人の垣根を取り除く活動を通じて、お互いの理解と交流を深めています。

県内の活動状況については、以下Webサイトより御覧ください。

みみサポみやぎホームページ「手話サークル・要約筆記サークル」



URL <http://www.mimisuppo-miyagi.org/circle.html#circle>

手話奉仕員養成講座

手話をはじめて学ぶ人が、日常生活に必要な基本的な手話を習得することをめざす講座です。入門課程と基礎課程があり、講座を修了すると「手話奉仕員」として地域のボランティア活動に参加することができます。

手話通訳者養成講座

手話奉仕員養成講座を修了した人が対象となる講座です。手話通訳者とは、専門的な知識や技術を習得し、耳が聞こえない・聞こえにくい人の社会参加をあらゆる面でサポートする役割や責務を担う専門職です。多くの研修を受け、試験にも合格する必要がありますが、大きな意義とやりがいのある仕事です。

当事者団体・関連団体

一般社団法人宮城県聴覚障害者協会

所在地 〒983-0836 宮城県仙台市宮城野区幸町4丁目6-2 宮城県障害者福祉センター内

↓「手話奉仕員養成講座」のお問い合わせ先

電話 022-293-5531 FAX 022-293-5532 E-mail miyarou@gmail.com

宮城県聴覚障害者情報センター(みみサポみやぎ)

所在地 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目1-6 宮城県本町第3分庁舎1階

↓「手話通訳者養成講座」のお問い合わせ先

電話 022-393-5501 FAX 022-393-5502

E-mail info@mimisuppo-miyagi.org

その他の当事者団体・関連団体

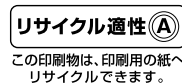
以下Webサイトより御覧ください。みみサポみやぎホームページ「関係団体リンク」



URL <http://www.mimisuppo-miyagi.org/link.html>



ユニバーサルデザイン (UD) の考え方にに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



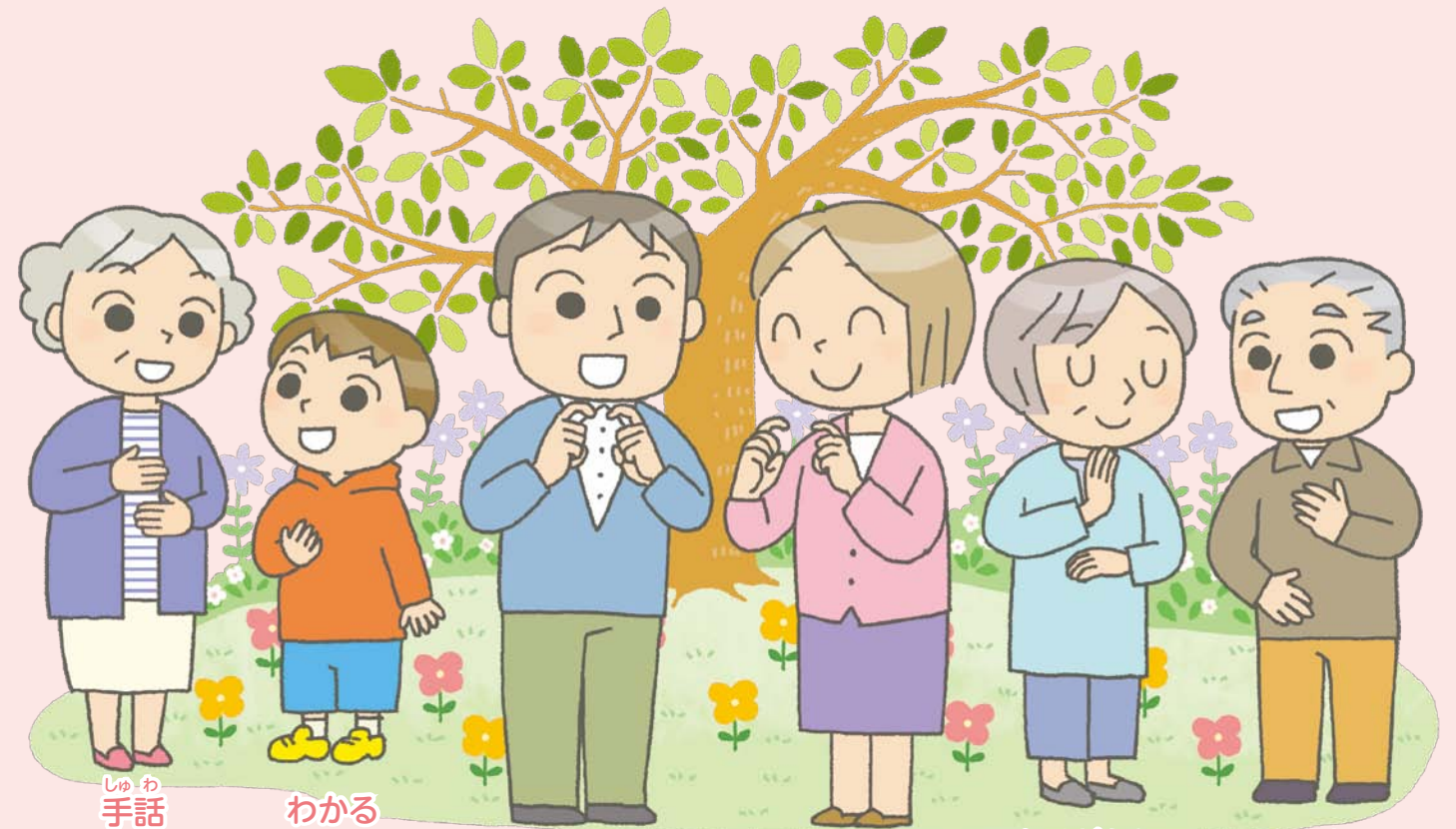
禁無断転載©東京法規出版
SG030200-17000-X14

手話で伝える、

資料16

手話でつながる

ご存じですか「宮城県手話言語条例」



手話

わかる

こんにちは

ありがとう

うれしい

手話とは? ~目で見て話すひとつの「言語」です~

耳の聞こえる人が音声を使って会話をする日本語や英語と同じように、手話は手指や体の動き、表情など視覚を使って会話をするひとつの「言語」で、法律上でも認められています。耳が聞こえない・聞こえにくい人にかぎらず、すべての人が手話に興味をもち、日常生活のなかで使えるようになれば、コミュニケーションの輪は大きく広がります。地域ぐるみで手話を活用し、豊かな共生社会をつくりましょう。

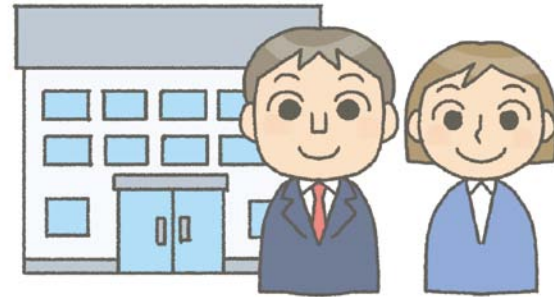
みやぎけん 宮城県

「手話は言語」みんなが理解と協力を

宮城県手話言語条例は、「手話は言語」であることをみんなが理解した上で、地域が一体となって手話を使いやすい環境をつくり、耳が聞こえない・聞こえにくい人も、そうでない人も、お互いの人格と個性を尊重し合える社会の実現をめざす条例です。

宮城県の役割

県では、手話への理解を促進し、手話の普及と、誰もが手話を使いやすい環境を整えるために、さまざまな施策を推進します。



たとえば…

手話を学ぶ機会の確保

地域住民や行政機関の職員などが気軽に、また個々の目的に応じて手話を学習できるサークルや講座などを開設します（裏表紙参照）。



学校教育での手話の普及

耳が聞こえない・聞こえにくい幼児・児童・生徒が通う学校教職員の手話技術向上や、幼児・児童・生徒や保護者が手話を学ぶ機会の提供を推進します。また、他の幼児・児童・生徒との交流の機会の充実に努めます。



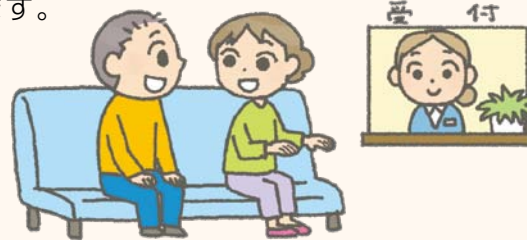
手話による情報発信

地域住民への普及啓発や、耳が聞こえない・聞こえにくい人に向けた行政情報、災害情報などを、ホームページなどで手話を用いて情報発信します。



手話通訳者・要約筆記者の養成・派遣

県では、手話通訳者や要約筆記者となる支援員を養成するための研修を開催しています。



県内の市町村では、医療機関の受診、就職面接、冠婚葬祭など社会生活上必要と認められる場合、手話通訳者や要約筆記者を派遣しています。

地域住民の役割

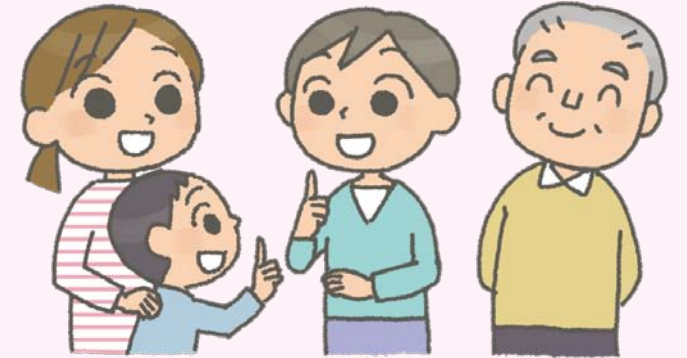
わたしたち住民は、手話への理解とともに、耳が聞こえない・聞こえにくい人に対して行われる行政のさまざまな施策や、事業者の配慮に積極的に協力します。



たとえば…

助け合いでつくる共生社会

まずは、手話に興味をもちましょう。地域の手話講座に参加し、ふれ合い、共に考え、学びましょう！豊かな共生社会は合理的な配慮による助け合いのなかから生まれます。



事業者の役割

会社やお店などの事業者は、手話への理解とともに、耳が聞こえない・聞こえにくい客へのサービスや従業員への配慮などを推進します。必要に応じて手話通訳者の派遣を依頼します。



たとえば…

音声以外による顧客対応

施設や店舗の受付などで、耳が聞こえない・聞こえにくい顧客に対して、手話をはじめとして、筆談など音声とは違う方法で会話ができるような準備や工夫をしましょう。



働きやすい環境づくり

耳が聞こえない・聞こえにくい従業員が職場に適應できるように、ほかの従業員が簡単な手話を覚えたり、筆談や絵・図などを利用したりして円滑な意思疎通をはかりましょう。



よく理解して正しくサポートを

耳が聞こえない・聞こえにくい人は、普段どんなことに困っているのでしょうか。何に困っているのかを知って、正しいサポートにつなげましょう。ちょっとした「気づき」や「心配り」がコミュニケーションを円滑にします。

こんなことで困っています

音による情報に気がつかない

駅や商業施設などで事故等の放送による案内が聞こえないので、いないと思われたり、必要な情報が得られなかったりします。



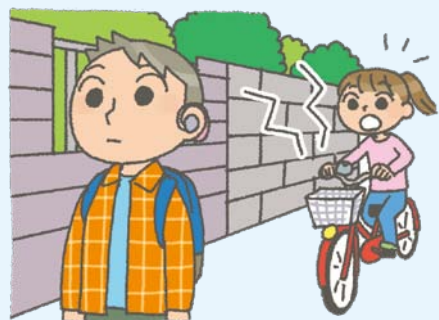
外見では気づいてもらえない

外見からはわかりにくいので、視線の合わない場所から声をかけられて気づかなかったとき、「無視された」と誤解されることがあります。



周囲の状況がわからない

自転車のベルや自動車のクラクションなどが聞こえず、路上で危険な目にあうことがあります。また、災害時などの状況判断が遅れることがあります。



複数での会話が難しい

複数の人が同時に話すと、相手の口の動きや表情が見えず、話の内容が理解できなくなることがあります。また、自分の思いも伝えられないことがあります。



せつ かつ 接し方のポイント

耳が聞こえない・聞こえにくい人すべてが手話を使えるとはかぎりません。どのくらい聞こえるかも人によってさまざまです。「聞こえない?」と思ったら、その人の状態にあわせ、手話だけでなく、残っている聴力、口の動きや表情などスムーズなコミュニケーションに役立つ手がかりを見つけることが大切です。

手話を覚えよう

手話と親しむために身近なものから覚えて積極的に使ってみましょう。日常生活で何気なくしている自然な動作が、手話に似ている場合もあります。また、手話以外に役立つコミュニケーション方法も知っておきましょう。

みやぎ 宮城

1



両手を斜めに立て、指を伸ばしたまま組み合わせる。

2



両手の人差し指を向かい合わせて曲げる。

しゅわ 手話



上下に並べた両手の手のひらを交互に回す。

こんにちは

1



人差し指と中指を立て、額にあてる。(「昼」を表現)

2



両手の人差し指を向かい合わせて曲げる。(「あいさつ」を表現)

よろしくお願いします

1



右手のこぶしを鼻にあてる。(「よい」を表現)

2



手を開き、頭を下げながら手を前に出す。(「お願い」を表現)

ありがとう

1



左手の甲に右手を乗せて上を上げる。(力士の手刀と同様)

2



頭はおじぎをするように軽く下げる。

ごめんなさい

1



親指と人差し指で眉間をつまむ。

2



手を開き、指をそろえて下へおろしながら頭を下げる。



うれしい
たの
・楽しい

わん曲させた両手を折り曲げて、親指以外の指の指先を胸に向け、交互に上下に動かす。



かな
悲しい

親指と人差し指の先をつけて目の下にあて、涙を流すように少し左右にゆらして下げる。



わかる

右手の手のひらで、胸のあたりをトントンと軽くたたく。



わからない

右手の指先で、胸の下から肩のあたりを2回くらいかき上げる。



できる

右手の親指以外の4本の指の先を、左胸から右胸の順にあてる。



できない
むずか
・難しい

右手の親指と人差し指で、右頬を軽くつねるようにする。



あぶ
危ない

折り曲げた右手(もしくは両手)の指先で、胸を2回くらいたたく。



に
逃げる

両手を握り、走って逃げるように交互にすばやく腕を振る。

※ここで紹介している手話と違う表現もあります。

手話以外のコミュニケーション

筆談

ノートやメモ帳などに文章を書きながら会話をしましょう。読み書きが苦手な人もいるので、あいまいな表現や、まわりくどい表現はさけて、短くわかりやすい文章を書くようにしましょう。



空書

空間に指で大きくゆっくりと、なるべく画数が少なく、わかりやすい文字を書くように心がけてコミュニケーションをとりましょう。同じように、テーブルの上や手のひらなどに書く方法もあります。



口話

補聴器などを使えば少しは聞こえる人とは音声による会話もできますが、大声を出すことで逆に聞きづらくなることがあります。はっきり口を動かしながら、1文字ごとに区切るのではなく、例えば、「雨が降っています」は「雨が」「降っています」と、ゆっくりと話すようにしましょう。



その他

たとえば、図やイラストを描いたり、ジェスチャー(身振り)をしたりして、こちらが伝えたいことを表現するのも有効な方法です。必要に応じてさまざまな方法を組み合わせてみましょう。



会話のポイント

耳が聞こえない・聞こえにくい人と会話をするときは、話の内容をこまめに確認しながら進めましょう。手話などコミュニケーション方法の技術の習得と共に大切なのは、「相手に伝えようとする気持ち」と「相手が伝えたいことをわかってもらう気持ち」です。

このマークをご存じですか



手話マーク

「手話で対応をお願いします」「手話で対応します」等を示すマークです。



聴覚障がい者標識

聴覚障がいがあることから運転免許に条件がある人の車に表示するマークです。周囲の運転者は配慮しましょう。